

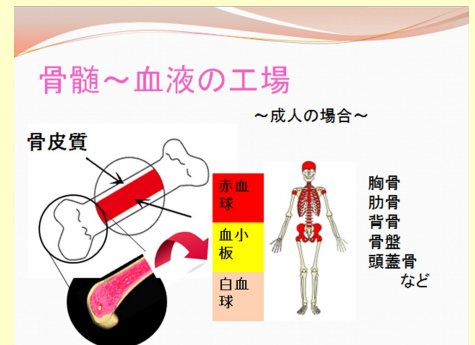
## 血液内科ってどんなところ？

Q 血液内科は何を扱う科でしょうか？

A 血液内科が扱う部分は、①骨髄、②リンパ系組織、です。

骨髄は鶏ガラの骨の中の赤いところで、赤血球、白血球、血小板を作ります（血液の工場）。大人になると作られる部分が減って、右図のようなところにあります。

ここに関係する病気として、赤血球数の異常（鉄欠乏性貧血以外の貧血、多血症）、白血球数の異常（白血病、血球減少）、血小板数の異常（血小板減少症、骨髄増殖性疾患）です。リンパ組織の病気が多いものはリンパ節が腫れるといった悪性リンパ腫などがあります。



Q 血液の病気はなぜ起こるのでしょうか？

A 明快な答えは出ていませんが血液の悪性腫瘍は他のがんと同様に1つの原因ではなく、様々な発癌因子やがん抑制遺伝子の破綻で起こります。

Q 血液の病気は治りますか？

A 治療が効きやすい病気が多く、進んだ状態でもかなり良くなります。反面、進行するのが早いので発見したらできるだけ早く受診して、治療をすることが必要です。病気と長くお付き合いして、普通の生活を送れると言うことが目標です。また、病気がほとんど見つからない状態を“寛解”<sup>かんかい</sup>といいます。

Q どんな時、どのように受診すればいいですか？

A かかりつけの医師に血液の病気かもと言われたり、長く続く赤血球、白血球、血小板の数の異常やリンパ節腫脹がありましたらご相談ください。診療日は月～金までの予約制です。できるだけ紹介状をお持ちください。

(血液内科医長 本村小百合)

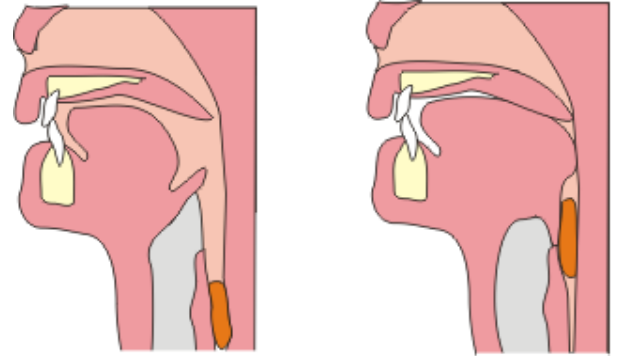
## 駐車場増設のお知らせ

平成30年2月27日（火）より駐車場台数を19台増設しました。ぜひご利用ください。  
増設前：123台（うち身障者用4台） → 増設後：142台（うち身障者用5台）



# 嚥下障害（えんげしょうがい）の検査

嚥下障害とは、食べ物をうまく飲み込めない状態のことです。本来ならば、食べ物は、口から食道を経て胃へと運ばれていくものです。しかし、のどの動きが鈍くなると、食べ物が空気の通り道である気管、そして肺へと迷い込んでしまいます。これを誤嚥（ごえん）と呼びます。「異物」が肺に入ってしまうのですから、肺炎の原因となります。



元気な人であれば、わずかな米粒や水が気管に入れば、むせて（咳をして）、異物をはじき出すことができます。ところが、脳卒中などにかかった患者さんは、食べ物が気管に入っても「むせない」ため、誤嚥に気がつかず、知らぬうちに肺炎になってしまう恐れがあります。

リハビリテーション科では、嚥下障害の発見のために、嚥下内視鏡と嚥下造影という検査を実施しています。

嚥下内視鏡では、細いカメラを鼻から入れます。色のついた水や食べ物を飲みこんでいただき、のどの動きを「中」から観察します（図1）。

嚥下造影には、レントゲンを使います。飲み込んだ際に、食べ物が気管や肺に入り込んでいないか、レントゲンで「横」から観察します（図2）。

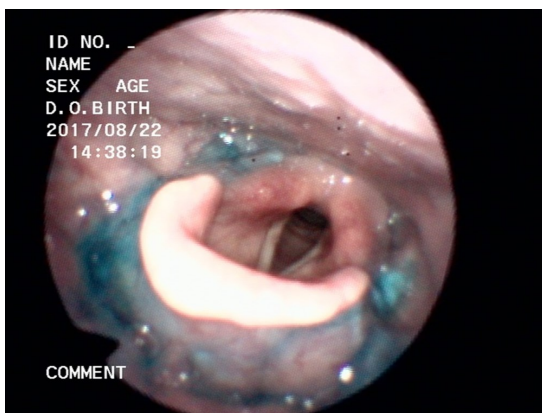


図1 嚥下内視鏡画像



図2 嚥下造影画像

これらを生かして、嚥下障害のリハビリテーションを行っています。検査を希望される方は、地域のかかりつけ医、あるいは、当院の主治医にご相談ください。

（リハビリテーション科 医長 高橋宣成）

公益財団法人東京都保健医療公社 多摩北部医療センター

外来診療時間：平日 9:00～17:00

土曜 9:00～12:30（ただし、診療科によって異なります）

診療予約受付電話：042-396-3511・3190

（受付時間：月～金 9:00～19:00 土 9:00～12:00）

当院ホームページはこちらから



<http://www.tamahoku-hp.jp>